

都市再生整備計画

きたおおかわらちく
北大河原地区

きょうとふ みなみやましるむら
京都府 南山城村

平成25年2月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	京都府	市町村名	みなみやましろむら 南山城村	地区名	きたおおかわらちく 北大河原地区	面積	1,430 ha
計画期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度	交付期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度				

<p>目標</p> <p>大目標 「村で暮らし続ける」ために必要な交流とふれあいの拠点づくり</p> <p>目標 1 基幹産業である農業(茶業)を軸にした持続可能な農業・産業の拠点づくり</p> <p>目標 2 支えあい暮らし続ける仕組み、「絆が支える地域づくり」</p> <p>目標 3 南山城村の情報、魅力を発信することで次世代担い手の呼び込み、定住を促進する</p> <p>目標 4 災害時の緊急避難施設等としての機能づくり</p>
<p>目標設定の根拠</p> <p>まちづくりの経緯及び現況</p> <ul style="list-style-type: none"> 南山城村は、京都府の東南端に位置した京都府唯一の村で、笠置町、和束町並びに奈良県、滋賀県、三重県の3県に隣接しており、大阪市、名古屋から約2時間圏内に位置する。 村の中央部付近には、中京地域と京阪神とを結ぶ、国道163号、JR関西本線、木津川が東西に走っており、面積は64.21km²、そのうちの約70%が山林である。 主産は茶業で、地域特有の香り高い良質な茶葉と製造技術は高く評価され、京都府茶品評会では産地賞を13年連続で受賞している。また、豊かな森林資源を活用し、原木しいたけの栽培も行っており、生産量は府内1位である。 集落は、村の中心部付近の北大河原地区、南大河原地区、村の北部で標高約500mに位置する野殿地区、童仙房地区、南側で高山ダム(名張川)の右岸には田山地区、左岸には高尾地区と点在しており、主要公共施設は、JR大河原駅付近に役場、JR月ヶ瀬駅付近には小中学校、保育園、保健センター等の施設が立地している。 本地区には、JR月ヶ瀬駅、国道163号のほか、昭和50年代に造成された住宅地である月ヶ瀬ニュータウンがあり、その中には村唯一の診療所がある。村では、本計画地内に小学校、保育園、保健センター等の主要施設を整備しており、村の主要地区となっている。 全国的に高齢化や人口減少による地方の活力低下が見られるなか、南山城村においても次世代の人口流出、高齢化等を防ぎ、「村で暮らし続ける」ための仕掛けとして、主要施設が立地する本地区を地域の住民と都市の住民とが集う交流場所として、地域活性化・振興施設の整備を計画する。 本施設では、村のもつポテンシャル「村の農業」「村の暮らし」「地域資源」を活用した「地域振興拠点」「交流拠点」「情報発信拠点」の整備により、村民にとって持続可能な農業・産業の展開と都市との交流による村の活性化を図っていく。 あわせて、災害時の緊急避難や防災機能を備え、地域の安全と安心の向上に資するものとする。
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 基幹産業である農業(茶業)低迷が担い手不足や農地の荒廃を引起しているうえ、経営維持の為過酷な規模拡大を行い農業も魅力が薄れている。 農家の担い手や次世代を担う住民の村外流出により少子高齢化による人口減少が深刻になっている。 人口減少により、村内の商工業も衰退し、村全体の活力の低下が懸念される。
<p>将来ビジョン(中長期)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「村で暮らし続ける」事を実現する為、「産業再生」、「絆づくり」、「次世代担い手育成」、の各プロジェクトを魅力ある村づくりプロジェクトとして南山城村第4次総合計画に位置付けており、実現場所として本地区を計画している。

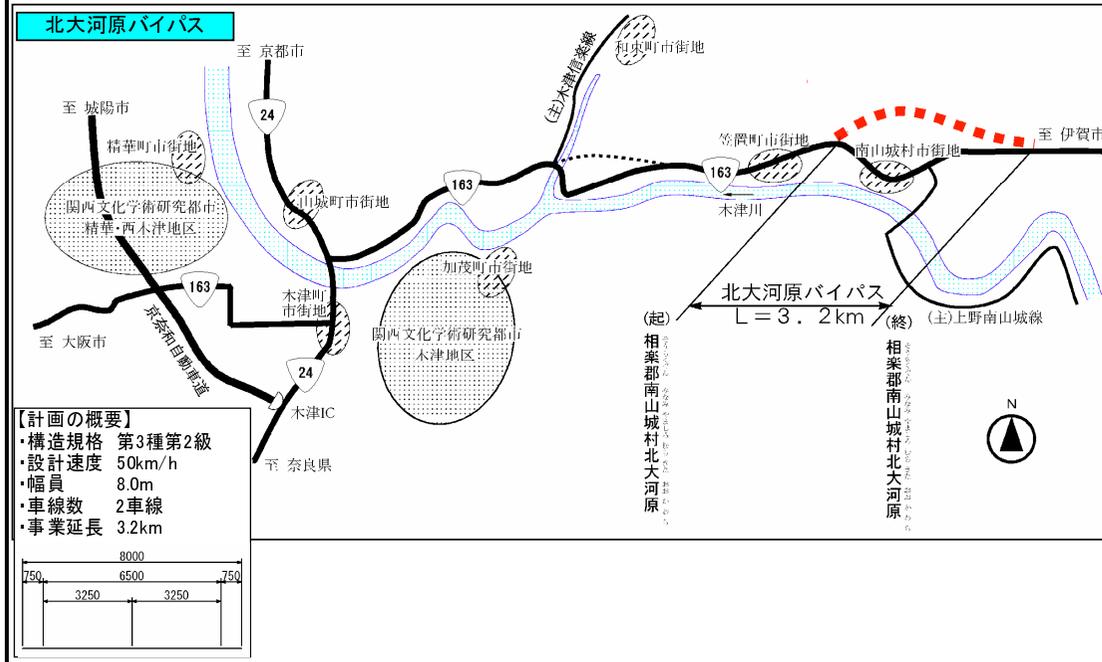
目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
				基準年度	目標年度		
南山城村の年間交流人口	人/年	村内各施設への年間来場者数	都市住民との交流促進を図る。	46,000	H24	50,000 H29	
南山城村産商品数	品	南山城村の農産物を使った商品の開発	村の農産物を使用した商品の開発、ブランド化による農業、産業の活性化を図る	0	H24	30 H28	
イベント開催回数	回/年	イベントの開催回数	南山城村ブランド確立に向けたPR活動等	5	H24	10 H29	

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(基幹産業である農業(茶業)を軸とした持続可能な農業・産業の拠点づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お茶」「農産物」に村の自然、風景、暮らしをデザインして取り込み、村のブランドとして紹介、販売、飲食できる施設を整備する。 ・村の農産物、主産物を使った商品、特産品を開発、製造、販売することで地域、農業の活性化を図る。 ・農家が自らの商品をPR、販売できる施設やイベントを開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 高次都市施設(まちおこし、観光交流センター) 高次都市施設(地域振興施設:飲食、物販施設、加工施設) 地域創造支援事業(商品、サービス開発) 地域創造支援事業(交流イベント)
<p>整備方針2(支えあい暮らし続ける仕組み、「絆」を支える地域づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント開催により、村民同士の交流を図る。 ・広場、散策道整備を行い、村民に親しまれる憩いの場を造る。 ・村民が、日用品、食品等の買物が出来る場の提供 ・コミュニティバスの発着所を設置することで、村民が来場しやすい施設とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 高次都市施設(まちおこしセンター) 地域創造支援事業(地域振興施設:商業施設誘致スペース整備) 地域生活基盤施設(緑地広場) 高質空間形成施設(緑化施設等) 地域創造支援事業(コミュニティバス停車場)
<p>整備方針3(南山城村の情報、魅力を発信することで次世代担い手の呼び込み、定住を促進する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年増加傾向にある、「ものづくり」、「ロハス」を志向する人々、世代等へ情報提供を行う。 ・現存村へ移住し、活動している作家達のPRの場を整備する。 ・農家が自ら商品をPR、販売することで都市住民との交流促進を図る場を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 高次都市施設(観光交流センター) 高質空間形成施設(道の駅看板) 地域創造支援事業(交流イベント、道の駅看板)
<p>整備方針4(災害時の緊急避難施設等としての機能づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時、道路利用者等が一時避難場所として利用できる機能を整備する。 ・防災関係資材、道路資材等の保管施設を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域生活基盤施設(広場兼避難所) 地域生活基盤施設(地域防災施設:耐震性貯水槽) 地域生活基盤施設(地域防災施設:備蓄倉庫) 地域創造支援事業(避難看板)

その他

- 一般国道163号 北大河原バイパス
一般国道163号は、大阪市を起点とし、三重県津市に至る延長約109kmの幹線道路であり、名神高速道路、国道1号、国道25号(名阪国道)等を補完する路線である。長距離輸送の大型車が利用が多く、混入率は30%を超えるなど、大阪圏と名古屋圏を結ぶ主要路線としての性格が強まっている。
北大河原バイパスは、一般国道163号のバイパスとして、南山城村内におけるJR関西本線との鉄道交差部の桁下制限(4.1m)箇所や狭幅員・線形不良による事故多発区間を回避し、安全な生活環境と良好な走行環境の確保を図るための路線(事業延長3.2km)であり、平成18年度から平成26年度を事業期間としている。バイパス整備により交通事故の低減、現道区間の環境改善を図るとともに、幹線道路の信頼性を高め、沿線市町村との交流・連携を促進するものである。
- 一般国道163号 今山交差点改良事業
当地区への主要アクセス道路である国道163号及びそれに取付く府道月ヶ瀬今山線、農道、村道が交差する今山交差点について、右折車線設置等の交差点改良を行い、安全性・円滑性の向上を図るものである。



都市再生整備計画の区域

北大河原地区(京都府南山城村)

面積

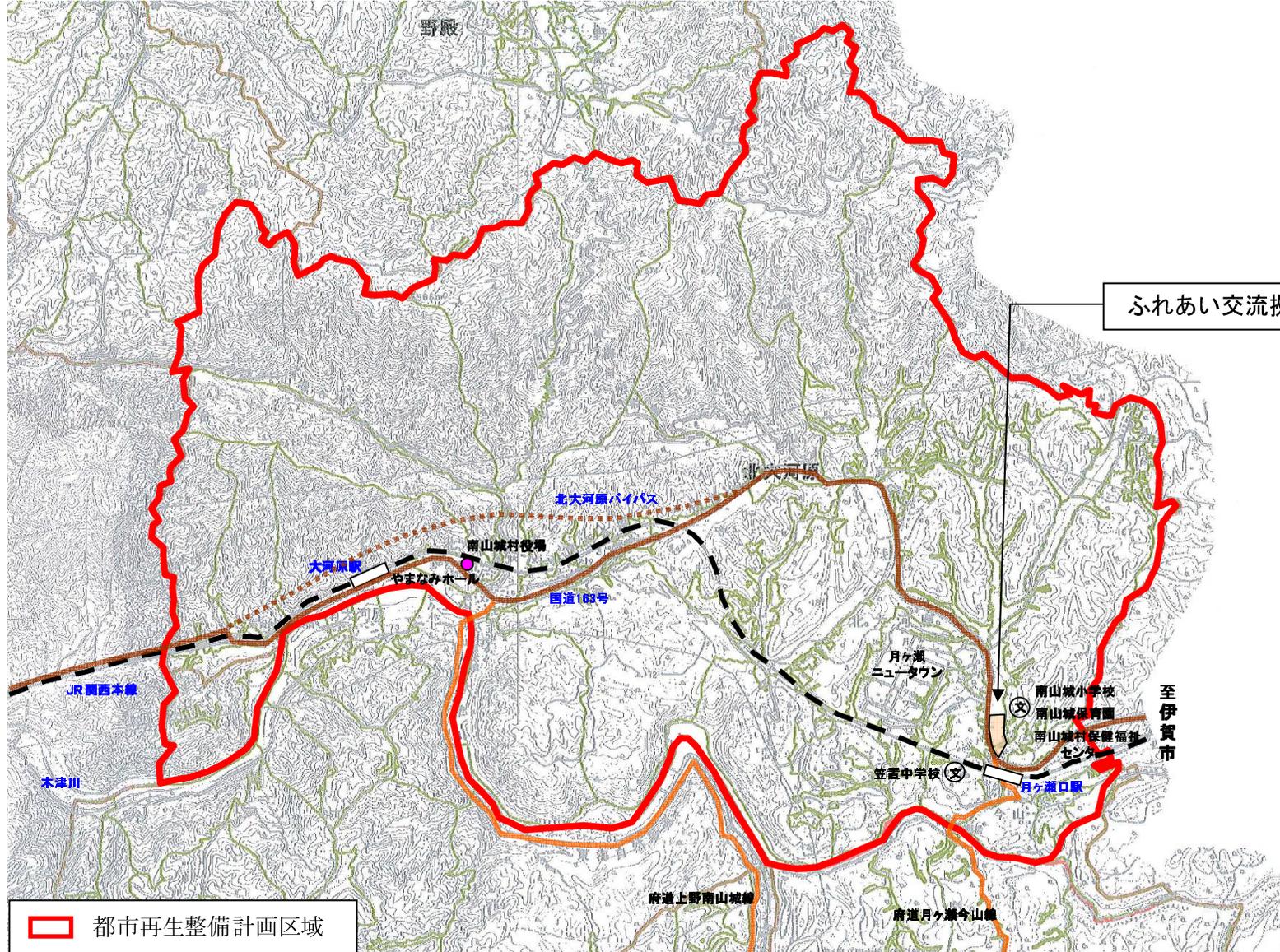
1,430 ha

区域

南山城村大字北大河原の全部



S=1:30,000



ふれあい交流拠点施設整備

都市再生整備計画区域

